



記録集

一般社団法人山梨県言語聴覚士会

第11回学術大会

言語聴覚士の本質

～言葉を紡ぎ^{つむ}・未来を創る～

会期

平成30年11月25日(日)

会場

山梨大学医学部キャンパス 臨床大講堂

大会長

小池 京子(国立病院機構甲府病院)

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第11回学術大会

記 録 集

会 期 平成30年11月25日(日)

会 場 山梨大学医学部キャンパス 臨床大講堂
〒409-3898 山梨県中央市下河東 1110 番地
TEL : 055-273-1111

事務局 石和温泉病院 言語聴覚室
〒406-0023 山梨県笛吹市石和町八田 330-5
TEL : 055-263-0111

後 援

一般社団法人日本言語聴覚士協会
山梨県
一般社団法人山梨県医師会
山梨県リハビリテーション病院・施設協議会
一般社団法人山梨県民間病院協会
一般社団法人山梨県理学療法士会
一般社団法人山梨県作業療法士会
公益社団法人山梨県看護協会
山梨県老人保健施設協議会
一般社団法人山梨県介護支援専門員協会
山梨県医療社会事業協会
一般社団法人山梨県介護福祉士会(順不同)

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 事務局

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科

〒406-0014 笛吹市春日居町国府 436

TEL : 0553-26-4126 FAX : 0553-26-4366

目次

ご挨拶	3
大会プログラム	6
特別講演	7
「言語聴覚士の本質 ～すべては幸せな臨床のために～」 目白大学保健医療学部言語聴覚科 教授 春原 則子	
教育講座.....	16
「高次脳機能障害の評価とリハビリテーションの実際」 甲府城南病院 桂川 謙佑 甲州リハビリテーション病院 元木雄一朗	
一般演題	32
認知機能低下を伴った90歳代失語症女性の書字能力への介入についての報告 湯村温泉病院 岡 大樹	
右大脳半球損傷患者の談話分析 甲府城南病院 橋本 晃典	
両側脳旧損傷により著明な前向性健忘を認めた一例 甲州リハビリテーション病院 池田 一之亮	
当院における咳テスト結果の分析と有用性についての検討 石和温泉病院 五十嵐 真之	
当院における言語聴覚士が関与した脳腫瘍患者の実態について 山梨大学医学部附属病院 石田 礼	
訪問リハビリ介入後、3ヶ月で日常的なコミュニケーションや 食事摂取時間に改善が認められた一症例 勝沼ナーシングセンター 坂井 李菜	
5年間にわたり失声症状を呈したがリハビリにより発声が可能となった一例 山梨リハビリテーション病院 石垣 亮太	
言語発達にのみ遅れが認められた児への支援についての報告 巨摩共立病院 依田 明子	
アンケート結果	65
実行委員名簿	67

第 11 回学術大会を終えて

大会長 国立病院機構甲府病院 小池 京子

平成 30 年 11 月 25 日に山梨大学医学部キャンパスにおいて開催いたしました、一般社団法人山梨県言語聴覚士会第 11 回学術大会は、初冬の素晴らしい天候と多くの参加者に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。参加者が 90 名を超え、多くの方にご参加いただきましたこと心よりお礼申し上げます。

今大会のテーマである「言語聴覚士の本質～言葉を紡ぎ・未来を創る～」には、近年、社会制度の変化に伴い、言語聴覚士の役割が拡大していく中、言語聴覚士という職業の本質を見つめ直し、我々の専門性を一緒に考えたいとの思いが込められておりました。

そのような思いから特別講演には目白大学言語聴覚学科長の春原則子先生をお招きし、「言語聴覚士の本質～すべては幸せな臨床のために～」と題してお話いただきました。臨床と研究は切り離すことのできない組み合わせであり、言語聴覚療法の未来のためにも重要なことであることを学びました。そして何よりも、担当させていただく患者さんに私たちは育てていただいていることを深く感じ、胸が熱くなるお話を伺うことができました。教育講座では、甲州リハビリテーション病院の元木雄一朗先生、甲府城南病院の桂川謙祐先生より、「高次脳機能障害の評価とリハビリテーション」についてお話いただき、具体的な症状の診方を学び、明日からの臨床にすぐに役立つヒントをいただきました。また一般口演では、8 名の先生方にご発表いただき、全ての口演とも座長が質問する時間がないほど、会場からの活発なご討議をいただきました。今大会が、言語聴覚士の本質を見直し、コミュニケーションを支える専門職であることを再確認でき、また新たな歩みにつながる機会となりましたなら幸いです。

今大会でも、例年通り行ったチャリティバザーでは、ご協力いただきましてありがとうございます。特に新たに加わったオリジナルクリアファイルは、ご好評をいただきました。事前にご協力いただいた施設紹介のスライドも各病院の特色が溢れ、職場の雰囲気がよくわかりました。賛助会員のご協力により企業展示も行われ、限られたスペースの中で、商品についてわかりやすくご説明をいただきました。

末筆ながら、特別講演、教育講演をお引き受けいただきました先生方、ご後援いただいた諸団体、発表者の方々、快くお引き受けいただいた査読委員・座長の先生方、そして日々の忙しい業務の中、大会の準備を行ってくださった実行委員長をはじめ、実行委員の皆様には深く感謝申し上げます。

第 11 回学術大会を終えて

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山量史

平成 30 年 11 月 25 日、第 11 回学術大会が多くの会員が参加され盛会に行われたことを嬉しく思います。平成 21 年 2 月 22 日に第 1 回の学術大会が開催され、昨年度の第 2 回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会が 10 回目の節目の大会となりました。「十年一昔」と言われますが、これまでの 10 年間で積み重ねてきた経験は自己研鑽の重要性や人材の育成という形で次世代を担う会員へ継承され当会の財産となっております。開催にあたり事前の準備ならびに当日の運営に携われた小池京子大会長、高橋正和実行委員長をはじめ実行委員、査読委員の皆様にご代表してお礼を申し上げます。

今回は「言語聴覚士の本質」～言葉を紡ぎ・未来を創る～をテーマに春原則子先生（目白大学保健医療学部言語聴覚科 教授）の「言語聴覚士の本質～すべては幸せな臨床のために～」の特別講演が企画されました。これまでの豊富な臨床経験の中から患者に寄り添ったエピソードは、言語聴覚士の真髄に触れる内容であり、言語聴覚士という仕事の魅力や醍醐味を改めて再確認し、自らの臨床観を見つめ直す契機となりました。

日本言語聴覚士協会 認定言語聴覚士（失語・高次脳機能障害領域）を取得された元木雄一朗先生（甲州リハビリテーション病院）、桂川謙祐先生（甲府城南病院）による教育講座では、「高次脳機能障害の評価とリハビリテーションの実際」をテーマに若い言語聴覚士の資質の向上のためにご講演いただきました。当会としては今後も認定言語聴覚士を多く輩出し、自らの資質の向上のほか、当会の人材育成にご尽力いただきたいと思います。

今回の口演には 8 演題がエントリーしていただきました。発表をされた 8 名の会員の方は当日の発表を迎えるまでには大変な苦労があったかと思いますが、どれも努力した成果がみられる発表であったと思います。会場からの質疑応答も活発であり有意義な口演となりました。

本大会での口演の経験を礎とし日本言語聴覚学会をはじめとする全国の学会発表へとつなげた会員も多くいます。今後のステップアップとしては是非チャレンジして欲しいと思います。

プログラム・抄録集にも記したようにこの 10 年の間にはリハビリテーションを取り巻く制度や環境は激しく変動しています。地域包括ケアシステムへの関与や地域リハビリテーション活動支援事業（介護予防事業、地域ケア会議）への参画が叫ばれ、効果的・効率的なリハビリテーションを提供しながら介護保険サービスを含めた地域資源の活用やその人が暮らす地域までを考慮した関わりなど、言語聴覚士は多様化するニーズに的確に対応する能力が求められる時代となりました。広範囲の知識や技術、経験を有するゼネラリストが必要とされていますが、これらは業務知識や経験、技術を特定領域で蓄積したその領域の習熟者であるスペシャリストであることが前提条件となります。

このような時代だからこそ言語聴覚士の専門性を磨き高めていく必要があると理解してください。

今大会のテーマ「言語聴覚士の本質」～言葉を紡ぎ・未来を創る～は言語聴覚療法を発展させ未来に繋げるために言語聴覚士の本来あるべき姿を再確認して欲しいという願いが込められていました。未来にこの領域を発展させて繋げていくためにも各会員は努力を続けて欲しいと思います。そのためにも当会は、専門的知識・技術の向上や自己研鑽の場を提供し、全国に誇れる屈指の幅広い学術活動・人材育成事業を展開していきます。ともに切磋琢磨し言語聴覚療法の明るい未来に向かって進んでいきましょう。

第 11 回山梨県言語聴覚士会学術大会を終えて

実行委員長 石和温泉病院 高橋正和

平成 30 年 11 月 25 日（土）、山梨大学医学部キャンパス臨床大講堂において開催されました第 11 回学術大会では、多くの会員が参加され盛会に行われました。これもひとえに皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

今大会のメインテーマは「言語聴覚士の本質」とし、春原則子先生による特別講演、元木先生、桂川先生による教育講座、一般口演 8 演題を企画致しました。

言語聴覚療法を提供する場や対象は広がっており、私たち言語聴覚士は医療・介護・教育の現場で、専門的知識や技術、他職種との連携などより多くのサービスの提供を求められています。社会情勢の急激な変化・複雑化していく制度の流れの中で、言語聴覚士の専門性を発揮していく為に、まずは自分の臨床を検証する姿勢・自己研鑽の重要性について再考する機会となったかと思えます。言語聴覚士の未来を見据えるために、言語聴覚士のあるべき姿を再考することの出来た有意義な大会であったと感じています。



一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第11回学術大会プログラム

8:50 受付開始

9:20 開会式
開会挨拶
大会長挨拶
日程の説明

9:30 口演1 高次脳機能障害 座長:吉澤 由香 (甲府城南病院)

9:30 認知機能低下を伴った90歳代失語症女性の書字能力への介入についての報告
湯村温泉病院 岡 大樹

9:45 右半球損傷患者の談話分析
甲府城南病院 橋本 晃典

10:00 両側脳弓損傷により著明な前向性健忘を認めた一例
甲州リハビリテーション病院 池田 一之亮

10:15 口演2 調査報告 座長:角田 美奈 (山梨リハビリテーション病院)

10:15 当院における咳テスト結果の分析と有用性についての検討
石和温泉病院 五十嵐 真之

10:30 当院における言語聴覚士が関与した脳腫瘍患者の実態について
山梨大学医学部附属病院 石田 礼

10:45~11:05 休憩(20分)

11:05 口演3 症例報告 座長:梶原 さわか
(健康科学大学リハビリテーションクリニック)

11:05 訪問リハビリ介入後、3ヶ月で日常的なコミュニケーションや
食事摂取時間に改善が認められた一症例
勝沼ナーシングセンター 坂井 李菜

11:20 5年間にわたり失声症状を呈したがリハビリにより発声が可能となった一例
山梨リハビリテーション病院 石垣 亮太

11:35 言語発達にのみ遅れが認められた児への支援についての報告
巨摩共立病院 依田 明子

11:50~13:10 昼休み(80分) 施設紹介・チャリティバザー・企業展示

13:10 教育講座 座長:深澤 有里 (山梨赤十字病院)

「高次脳機能障害の評価とリハビリテーションの実際」
甲府城南病院 桂川 謙祐
甲州リハビリテーション病院 元木 雄一郎

14:30 休憩(20分)

14:50 特別講演 司会:小池 京子 (国立病院機構甲府病院)

「言語聴覚士の本質 ～すべては幸せな臨床のために～」
目白大学保健医療学部言語聴覚科 教授 春原 則子

16:20 閉会式
閉会挨拶
終了

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第 11 回学術大会 実行委員名簿

大会長：小池 京子（国立病院機構甲府病院）

実行委員長：高橋 正和（石和温泉病院）

事 務 部	◎南 曜子（石和温泉病院） 遠藤 大介（石和共立病院） 窪田 光（甲府城南病院） 佐々木蘭子（春日居サイバーナイフ・リハビリ病院） 佐藤 綾美（甲州リハビリテーション病院） 林 正裕（石和温泉病院） 藤原 裕己（恵信甲府病院）
企 画 部	◎小松 富美子（国立病院機構甲府病院） 市川 麻衣（山梨県立中央病院） 神田 侑（甲州リハビリテーション病院） 中嶋 崇博（山梨県立中央病院） 萩原 由香（山梨リハビリテーション病院）
会場運営部	◎市川 奈弥（巨摩共立病院） 石田 礼（山梨大学医学部附属病院） 秦 亮太（甲府共立病院） 原田 史佳（巨摩共立病院） 矢萩 智章（湯村温泉病院）
編 集 部	◎桂川 謙祐（甲府城南病院） 今井 美紀（甲州リハビリテーション病院） 岡 大樹（湯村温泉病院） 佐藤 淳貴（甲府城南病院） 杉本 久美子（山梨リハビリテーション病院）
演題採択委員	◎内山 量史（春日居サイバーナイフ・リハビリ病院） 赤池 三紀子（湯村温泉病院） 赤池 洋（山梨大学医学部附属病院） 小池 京子（国立病院機構甲府病院） 高橋 正和（石和温泉病院）
査 読 委 員	◎角田 美奈（山梨リハビリテーション病院） 梶原 さわか（健康科学大学リハクリニック） 武井 徳子（甲州リハビリテーション病院） 宮崎 恭子（山梨大学医学部附属病院） 向 亜希香（塩川病院） 望月 真由美（甲府共立病院） 山本 未樹子（湯村温泉病院） 吉澤 由香（甲府城南病院）

敬称略 50 音順 ◎：部長および委員長

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 事務局
 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科
 〒406-0014 笛吹市春日居町国府 436
 TEL：0553-26-4126 FAX：0553-26-4366
 E-mail：st@kasugai-reha.com